

古条挿し木の活着等に及ぼす母樹の品種・樹齢及び台木の影響

土 井 則 夫

(福島県蚕業試験場)

The Effect of Varieties, Age and Stock of Trees on Survival
and Growth of Mulberry Wood Cutting

Norio Doi

(Fukushima Sericultural Experiment Station)

1 は じ め に

古条挿し木は簡易に桑苗を生産できる方法の一つであるが、品種あるいは母樹の性状等により活着に影響がでる。

そこで近年登録された桑品種における古条挿し木の活着等を調査するとともに母樹の樹齢及び台木の影響についても調査した。

2 試 験 方 法

[1995年調査]

古条挿し木における活着等の品種間差異については、表1に示した6品種を供試した。また、母樹の樹齢と活着との関係は系統5E-4の植付2～4年目の桑枝条を供試した。一方、台木の影響については表3に示した8品種の台木を改良鼠返の穂木に接ぎ、植付2年目の母樹古条を挿し木に供試した。

[1996年調査]

試験A：植付1年目の春切無伐採株の古条を用い、挿し穂1本を供試した。供試品種は表4に示した9品種である。

試験B：植付4年目(みつみなみは植付3年目)の春切無伐採株古条を用いて、挿し穂2本を供した。供試品種は表5に示した9品種である。

上記挿し木用穂木採取母樹はいずれも根刈、春切無収穫とし、古条基部から1～3本挿し穂を取り、供試している(表1～5共通)。古条挿し木はマルチング挿し木法により、その他管理は福島県蚕業試験場慣行法によった。

3 試験結果及び考察

[1995年調査]

古条挿し木の品種間差異はゆきあさひが97～100%と最も活着率が高く、次いでみつしげり、みつみなみであった(表1)。母樹の樹齢の影響は3、4年目古条で80～94%であり、2年目古条ではやや活着率が低下し、基部3本目の活着率は50%台となった(表2)。異なった品種の台木に改良鼠返の穂木を接いで生育した桑の古条を挿し木に供試した場合、活着に大きな影響は認められなかった(表3)。

[1996年調査]

試験Aで活着率が最も高い品種はゆきあさひ、次いでゆ

表1 古条挿し木の活着等に及ぼす桑品種の影響
(1995年)

品 種	採取 部位	活着 割合 (%)	最 長 枝条長 (cm)	平 均 枝条数 (本)	側枝発生 枝数割合 (%)
しんいちのせ	1	65	139	1.4	3
	2	45	157	1.3	0
	3	45	146	1.8	3
はやてさかり	1	41	180	1.4	4
	2	21	168	1.3	12
	3	13	181	1.6	13
みつしげり	1	93	204	1.5	27
	2	59	183	1.5	17
	3	74	202	1.5	23
ゆきあさひ	1	100	106	1.4	0
	2	97	108	1.3	0
	3	100	145	1.6	0
たちみどり	1	32	215	1.6	32
	2	19	230	1.5	40
	3	17	198	1.4	25
みつみなみ	1	70	214	1.7	32
	2	63	215	1.6	35
	3	69	215	1.6	28

- 注. 1) 母樹樹齢：植付3年目(みつみなみは植付2年目)。
2) 供試穂木：54本。
3) 調 査：1995年10月30日。
4) 採取部位：基部からの枝条の位置を示す(表2, 3, 5も同じ)。

表2 母樹の樹齢が古条挿し木の活着等に及ぼす影響

樹 齢	採取部位	活着割合 (%)	最長枝条長 (cm)	平均枝条数 (本)
2年目	1	86	233	1.7
	2	70	212	1.7
	3	54	196	1.8
3年目	1	88	243	1.6
	2	90	227	1.5
	3	76	227	1.5
4年目	1	94	242	1.7
	2	86	209	1.6
	3	80	206	1.7

- 注. 1) 母樹樹齢：系統5E-4, 植付2～4年目。
2) 供試穂木：50本。
3) 調 査：1995年10月30日。

表3 品種の異なる台木から生育した古条を挿し木に供試した場合の活着等に及ぼす影響

台木の品種	採取部位	活着割合 (%)	最長枝条長 (cm)	平均枝条数 (本)
改良鼠返	1	28	157	1.8
	2	6	150	2.0
一ノ瀬	1	28	138	1.8
	2	33	172	1.8
しんいちのせ	1	29	185	1.5
	2	10	174	1.5
ゆきしのぎ	1	20	151	1.7
	2	33	197	1.8
ときゆたか	1	29	171	1.7
	2	13	174	2.5
はやてさかり	1	19	107	1.0
	2	19	175	2.0
あおばねずみ	1	24	162	1.8
	2	10	144	1.5
みつしげり	1	14	162	2.0
	2	11	164	1.5

注. 1) 母樹樹齡：植付2年目。
2) 供試穂木：12~21本。
3) 調査：1995年10月30日。

きまさりで80%以上であった。みつしげり、みつみなみは活着率60%台であった(表4)。

試験Bでは活着率が最も高い品種はゆきあさひ、次いでしんけんもちで基部2本目までの活着率は80%以上であった。みつしげり、おおゆたか、みつみなみ、しんいちのせにおいては基部1本目の活着率は50%以上であった(表5)。

1996年の活着率が1995年に比較してやや低い傾向にあったが、これは1996年の挿し込み後、気温がやや低く、また降水量も少なかったことによるものと推察された。

4 ま と め

桑母樹の品種との関係では、活着率についてはゆきあさひ、ゆきまさり、みつしげり、しんけんもちで高かった。また母樹の樹齡との関係では樹齡が増すほど活着率は高く、母樹台木の品種による活着率への影響は判然としなかった。現在、古条挿し木の活着率の高位安定化とともに省力桑園造成技術の確立のための試験を進めている。

表4 古条挿し木の活着等に及ぼす桑品種の影響 (1996年)

品 種	活着割合 (%)	最長枝条長 (cm)	平均枝条長 (cm)	平均枝条数 (本)	側枝発生枝数割合 (%)
一ノ瀬	16	146	128	2.4	15
改良鼠返	14	102	95	2.4	50
みつしげり	66	169	151	1.7	7
ゆきまさり	80	135	126	1.9	13
みつみなみ	64	174	169	1.5	17
たちみどり	22	52	49	1.6	0
ゆきあさひ	88	139	127	2.0	7
ひのさかり	4	95	95	1.5	0
はちのせ	14	62	46	2.5	0

注. 1) 母樹樹齡：植付1年目。
2) 供試穂木：50本。
3) 調査：1996年11月8日。

表5 古条挿し木の活着等に及ぼす桑品種の影響 (1996年)

品 種	採取部位	活着割合 (%)	最長枝条長 (cm)	平均枝条長 (cm)	平均枝条数 (本)	側枝発生枝数割合 (%)
しんいちのせ	1	51	83	72	1.8	0
	2	37	75	63	1.6	0
しんけんもち	1	88	140	128	1.5	11
	2	80	133	122	1.4	13
はやてさかり	1	38	135	123	1.4	3
	2	14	137	131	1.4	0
あおばねずみ	1	24	90	89	1.5	19
	2	26	130	123	1.5	12
みつしげり	1	66	164	153	1.6	3
	2	40	161	151	1.2	10
ゆきあさひ	1	94	159	134	1.9	3
	2	86	144	134	1.5	8
たちみどり	1	23	82	62	1.6	0
	2	14	101	101	1.3	0
みつみなみ	1	52	167	153	1.4	8
	2	54	155	141	1.5	11
おおゆたか	1	54	155	141	1.5	11
	2	21	87	74	1.7	8

注. 1) 母樹樹齡：植付4年目(みつみなみは植付3年目)。
2) 供試穂木：35~50本。
3) 調査：1996年11月8日。